

会議の概要

令和4年度 第8回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和5年1月12日（木）18:30～20:20
場 所：改善センター1，2階 多目的ホール他

（進行 指導主事 渡邊 博樹）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 矢吹 吉信）

皆さん、こんばんは。改めまして、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。それでは、これから令和4年度第8回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を行います。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘）

○ 皆さん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

また、本日もお疲れのところ第8回CS委員会にご出席いただきましてありがとうございます。本日の要項にもありますように、議題としては大きく2つあります。一つは来月予定しております「おおたまコミュニティ広場」の打合せと、もう一つは、「おおたま・オータム・フェスタ」の運営に関する熟議です。前回の委員会でご意見をいただいておりますように、「おおたま・オータム・フェスタ」を中心とした今年度の取り組みに関してしっかりと振り返り、次年度に向けた改善策を話し合っておく必要があるだろうということでしたので、ぜひそういった内容で互いに知恵を出し合って実りのある熟議にしていだければと思います。もちろん今回も時間に限りはあるわけなのですが、その辺の所をうまく使っていただきながら、次年度につながるような会になればありがたいと思っております。なお、次回2月が今年度の最後の委員会ということになり、内容としては各幼稚園、各学校の次年度の計画について承認をいただくことがメインの会議になりますので、そのことも併せてよろしくお願いいたします。

また、委員の皆さんの現在の任期は1期2年で、今年度末で満了ということになります。委員の構成に関しては、今後も各幼稚園、各学校からの推薦を中心に人選を進めていきたいと思っております。まもなく担当より相談をさせていただきます。継続性という意味合いを大切にしつつ、なおかつ新しい視点も入れるということも大事だと思いますので、その辺のバランスを大切にしながら人選を進めさせていただきます。今後、各園長、各校長から委員の皆さまにご相談させていただくことがあると思いますので、その際にはぜひ積極的にご協力いただけましたらありがたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議よろしくお祈りします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ（おおたま学園CS委員会会長 伊藤 和弥）

皆さん、おばんでございます。改めまして、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りいたします。寒くなったり暖かくなったり、強い風の日があったりと、冬だから仕方がないのですが、天気が安定せず体調を崩しやすい日が続いております。また、コロナも結構流行っていますので、十分に気をつけながら活動をしていきたいと思っております。

先程お話しいただいた通り、今日は熟議で65分間時間をとります。今までの反省点として、熟議はしても改善策をなかなか見出せないまま時間がかかり、結局尻切れトンボに終わってしまうということがありました。改善策を見いだせるように時間をたっぷり用意しましたので、いろんな意見を出していただき、来年度の活動に向けて改善できる点をあげていただきたいと思います。また、来月コミュニティ広場が開催されます。おおよその流れは決まっておりますので、最終的に確認いただき、疑問点等ありましたらチェックしながら進めていきたいと考えています。

本日も限られた時間ですが、活発なご意見をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



4 諸連絡

- 本日の日程・内容について

<本日の協議題>

- (1) 第4回おおたまコミュニティ広場(第14回教育フォーラム)最終打合せ
- (2) 令和4年度CS委員会活動についての説明
- (3) 2022おおたま・オータム・フェスタについて
 - ① 今年度の運営について熟議(活動部別)
 - ② 各部からの報告
 - ③ 全体共有

5 協議

(座長 CS会長 伊藤 和弥)

(座長) それでは協議を進めさせていただきます。まずは第4回おおたまコミュニティ広場最終打ち合わせということで、当日の運営の流れ、役割分担、進行表との説明を事務局よりお願いします。

(1) 第4回おおたまコミュニティ広場(第14回教育フォーラム)最終打合せ

- ① コミュニティ広場当日の運営の流れ、役割分担、進行表等の説明 (指導主事 渡邊博樹)

*資料に基づき変更点の説明

- 「12 会場図」
 - 1階健康相談室は使用せず、2階生活改善室に3グループ配置する
 - ・ワールドカフェ形式をとる。(1階は1階同士の班で、2階は2階同士の班で)
 - ・参加者が確定次第座席を決める。(全席指定とする)
- 「進行表」
- 「最終確認」
 - CS委員の集合時刻は7時40分とする。(最終の打合せをする)
- 他については前回の委員会で説明した通り

② 質疑応答

(座長) ありがとうございました。質疑応答ということで、今の説明を受けて確認したいこと、共通認識を図りたいこと等ご意見があればお願いします。

(渡邊指導主事) 役割分担でご心配な点がある方はいらっしゃいますか。

(座長) 大丈夫でしょうか。基本的にはいつもの流れではあります。難しい会議ではないと思いますが、初めての方もいらっしゃいますので何かありましたらお願いします。

(CS委員) ～ 特にない様子 ～

(座長) 続きまして、「(2) 令和4年度CS委員会活動についての説明」について事務局よりお願いします。

(2) 令和4年度CS委員会活動についての説明 (指導主事 渡邊 博樹)

＊資料に基づき説明

- ① 令和4年度の重点(基本方針)について
 - 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を一層推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す。
 - 保護者・地域・住民の参画を促すための情報発信の方法を検討し、工夫を図る。
- ② 令和4年度おおたま学園CS委員会活動内容について
 - 本年度は9月の会議を行わなかった。おおたま・オータム・フェスタについての共通理解を十分に図ることができなかった。次年度以降改善する。

(座長) これを受けて「(3)の2022おおたま・オータム・フェスタについて」の熟議ということですね。各活動部ごとの熟議を19時30分頃までしていただきたいと思います。各部毎の記録は事務局職員でお願いします。

～ 移 動 ～

(3) 2022おおたま・オータム・フェスタについて

- ① 今年度の運営についての熟議
(今年度の活動を振り返って / 次年度の活動を見据えて)
- ※ 各部ごとに熟議を進める。



② 各部からの報告

(座長) それでは各部から熟議内容の説明をお願いします。一通り報告を受けてから確認したいことや共通理解を図りたいことということで意見交換をしたいと思います。

<スポーツ交流イベント部> (玉井幼稚園副園長 後藤弥和子)

- コロナ禍のため今回は難しかったのですが、子どもたちとふれ合えるような時間確保と競技(遊び)の選定をしていけばいいという話が出ました。今回は屋外だけの活動だったのですが、屋外と屋内の両方を使って活動すると密にならないし、活動の幅も広がるということ。また、学年の入れ替え(年中組→年長組)はそのままでもいいのではないかとということです。
- 地域で参加してくださった団体の方々的人数は今回程度で十分だったのではないかとということです。ただ、今回は前半参加、後半参加というふうに分けていたのですが、前半においでになった方々は「最後までいる。」とおっしゃり、その通り実際最後までいてくださったので、来年度は最初から最後までというようにして前半・後半と分けたいと思います。
- 競技内容については、先生方と話し合いをして子どもたちに適した活動を取り上げていくといいということになりました。

<昔遊び・グラウンドゴルフ部> (大玉中学校長 安田 浩明)

- どの活動にも共通することだと思いますが、「昔遊び・グラウンドゴルフ部」でも事前にCS委員と教職員、教育委員会職員とで1回顔を合わせて打合せが必要だったのではないかと話になりました。教職員は7月の夏休み中に研修があり、研修の日に合わせて各部に分かれて打合せをしています。そこにCS委員に参加していただくとなりますと、日中にお仕事を休んで集まってくか、または、CS委員が集まりやすい夜に先生方に出ていただくかになります。その辺がこれからどうなるかは分かりませんが、どちらにしても、1回みんなで役割分担をしっかりと、誰がどういう担当でどんな準備をしなくてはならないかということをはっきりさせるよう協議する必要があるということでした。
- 開催場所なのですが、今回村民体育館が使えないとのことで中学校が会場になりました。そのメリットとしては駐車場が広いということが挙げられます。皆さんもご存じのように、村民体育館は駐車場があまりありません。結構たくさんボランティアの方々で集まりますので、そういう意味では中学校は駐車場も敷地も広いですのでよかったですと思います。時期については、中学校としては中体連新人戦や文化祭とかがあって忙しいのですが、オータム・フェスタということですので秋の時期としてはベターだと思います。
- 「昔遊び」のローテーションについては、「一つ一つに取り組む時間がちょっと少なかった(短かった)」、「もう少しじっくりと遊べる時間があればよかった」という反省がありました。その改善のため、遊びの種類を減らすとともに、一つの遊びにおける担当コーナーを増やす(ex.2グループ→4グループ)と、かける時間も増えてじっくりできるのではないかとことです。
- 中学生が、お兄さんお姉さんとして一生懸命に小さい子どもたちの面倒を見てくれました。そういうことにやりがいを感じて、子どもたちが交流していた様子が見られましたので、来年度は思い切って、“中学生はサポート役にして、ボランティアを核として、中学生が教わりながら小学1,2年生の面倒を見る”、そんなこともいいと思っています。そのためには、中学生に対する事前の指導や打合せも必要になってくると思いますが、そんなやり方もあるのではないかと意見も出ました。また、コロナが終息したら以前のように豚汁も食べたいなど…。苦楽を共にして、最後には美味しいものを食べるのはいいことではないかと思います。



<大名倉山登山部>

(玉井小学校長 佐藤 則之)

○ 今回の熟議では、登山そのものについての時期とか運営方法よりは、どちらかと言うと、“活動の目的を明らかにしていく必要がある”ということが中心になりました。「何のために安達太良登山をするのか」、「何のために大名倉山登山をするのか」、「何のためにスポーツ交流ををするのか」等々、そこが明確にならないと、“すでにあるもので、これはやるもの”ということになってしまっていて、どうしても負担感を感じてしまうのではないかという意見が出されました。

コロナ禍でオータム・フェスタができない年があつて、これまで4～5回実施したという話をお聞きしました。ある程度見直す時期にきているのではないかということです。大名倉山登山と離れた熟議になったのですが、とてもいい話し合いになったと思います。その中で、例えば学校現場の立場からすると、確かに村としていろんな学校に対しての支援があり、他の市町村でやっていないこともたくさんあつてすごくありがたいなと思う部分もあります。ただ、今回このCS委員会という場でいろんなことが企画されて実践されていき、他にもおおたま学園で実践していくこともあります。また、地域学校協働活動でやっていることもあるのですが、おそらく現場の先生方からすると、どれがどの範疇なのか分かっていないと思います。他市町村の話で大変恐縮なのですが、他の市町村にも学校があつて、学校独自の行事がいろいろあり、様々な教育活動も行っています。大玉村の場合はどうなのかと考えると、例えばCS委員会でやっているこのオータム・フェスタはすごく素晴らしい特色のある活動だなと思います。ただ、運動会、学習発表会等学校独自の行事もやっているんですね。だから、単純には言えないのですが、大玉村の学校や幼稚園は、他の市町村の学校や幼稚園でやっている行事プラスαをやっているということです。だから先生方はどうしても負担感というか多忙感を感じてしまうんだと思います。

それを解決していくためには、何のためにこの活動をやるのかを明確にすることだと考えます。それがはっきりしていないと、やらされ感が大きくなってしまいますので、ここで一度CSで取り組んできたオータム・フェスタ等をみんなで振り返ってみたり、はたしてねらいや目的は何なのかをみんなで確認したりしてから取り組んでいくと、意識としても違ってくるのかなと思います。

○ CS委員会の重点の一つに「保護者・地域住民の参画を促すための情報発信の方法を検討し、工夫を図る」がありますが、どこまでできたのだろうかとは私は大名倉山登山の活動を通して考えてみました。3年生の保護者の中で手を挙げてくださって、子どもたちと一緒に山に登って頂上から景色を眺めて「大玉村っていい所だよな」と実感された保護者の方もいらっしゃったのですけれども、本当に申し訳ないのですがごく一部の方なんですよね。「広く保護者の方が分かっていたか」というとそれはまだ足りなかったし、地域の方もある程度限定的だったので、そういったところでもっと親同士がつながりを持てるような内容をいれていくとか、親と先生方の関わり合いが持てるような場面をこの企画の中に盛り込んでいみるとか、そういう視点があつてもいいと思いました。

学校現場ではコロナ禍ということがあつて、学年行事は行っていません。だから、親同士顔が分からないというのがあります。「〇〇ちゃんのお母(父)さんって誰なの?」といった感じで…。来年度、各校園のPTA活動の中でしっかりと知恵を絞って取り組んでいくとか、また、CSでも企画するとかしてはどうでしょうか。例えば、大山幼稚園と玉井幼稚園で行った「スポーツ交流イベント」で子どもたちが集まっているいろいろな競技をしたのですが、あの時に親も参加したら面白かったのではないかと感じました。(ただ、可能か否かは別の問題ですが…)

もし、そういう親同士が関われるような機会となるのであれば、CS委員会で企画してやってみる意義は今以上にあるのかなと思います。



＜安達太良ふれあい登山部＞ （指導主事 渡邊 博樹）

- 開催時期についてですが、「土曜・日曜だと大変混み合っただ大変だ」というアンケートの記述があったのですが、平日だと保護者や協力団体の参加が難しくなるという別の問題が発生し、また、混んでいた方が逆にゆっくり登れて、子どもたちがそんなに疲れないというメリットもあるという意見が出ました。また、下山する人や登山する人と出会いながら、あいさつをし合ったり、「頑張れ～」とかの励ます姿を学ぶ機会にもなっているので、平日開催よりも土曜日開催の方がいいのではないかとということになりました。
- 一週間くらい前に実施可否の判断をしたのは遅かったという意見があったのですが、この辺については、今どういう状況で、今後どういうふうに予想しているのかを教育委員会と学校、関係団体で共有が必要だったのではないかと、「今感染状況は〇人いて、これから一週間後にはこの位減る予想でいる」等の情報を共有していれば、実施できそうかどうか分かるのではないかと意見が出ました。
- 事前にあたら山の家や協力者と打合せをする必要があるのではないかとということも意見として出ています。
- 私は平成28年度当時に大玉中学校に勤務しており、その時に第1回目のおおたま・オータム・フェスタを経験しました。全くゼロからのスタートで、やはり何のためにやるのか分からなかった記憶があります。やはり目的を全員で共有し、その達成のためにやるんだという認識をもつことによって、先生方も「頑張ろう！」という気持ちになるのかなと思います。



＜オリエンテーリング部＞ （社会教育係長 田辺 将裕）

- おおたま学園CS委員会という名称がありますが、これによって学校とCSとで認識が違うのかなという話が出ました。(例えば、学校ではおおたま学園CS委員会開催なのでCS委員会で行うものという認識で、CS委員会ではおおたま学園がついているので学校行うものという認識)
- CS委員の関わり方をどのようにして行っていったらいいか → CS委員が積極的に参加して理解を深めていくのか、それとも手伝い程度なのかということ、その辺をもう一度検討していかなければならない。
- 時期的には、学校でもいろんな行事がある中に行われるわけですが、前年度に行事調整会議（各校園も参加）があって、そこで事前に10月頭ということで決定したというのが現状です。可能であれば、行事調整会議の前におおたま・オータム・フェスタの時期的なことも考えていければいいという意見も出ましたが、先程話があった通り、やはり学校としてもオータム・フェスタという名称なのでこの時期しかないのかなという意見もありました。
- 学校行事ということなのですが、実際学校にかかる負担が大きいのも事実ですので、教職員が行うもの、教育委員会が行うもの、CS委員が行うものというふうに役割分担を明確にして、あとは打合せの場を多く持つてできればいいという意見がありました。
- オリエンテーリング部で課題として大きなものはありませんでした。ただ、協力団体の母の会で一部遠く（コースの端）に立っていただいた方がいたのですが、事前の説明が足りなくて、地図だけでは分かりにくく大変だった等の反省がありました。アンケート結果をこのままにしないで、できることから改善していくということでもとまりました。



<ミニ運動会部>

(生涯学習課長 渡邊 雅彦)

- 運動会については、中学生が主体となっていていろいろ段取りや仕切り等を行い、その上小学生の面倒もしっかり見ていて、各班毎に円陣を組んだり作戦を練ったりする姿も見られて本当に良かった、素晴らしかった等の意見が出されました。
- 課題は、他の部からもあったように、本番は中学生が取り仕切ってそれぞれやっただいており素晴らしかったです。それはそのままいいのですが、CS委員が手伝いをするのもあまりなかったですし、先生方には準備の段階から大変だという意見もあるということです。来年度は先生方と話し合う場を設けて、準備段階からCS委員と保護者で手伝えることがあればぜひ手伝わさせていただいて、いくらかでも先生方の負担を減らせばいいと思います。それから、目的がどういうところにあるのかにも通じるのですが、全学年実施しなくてもよいのではないかと、実施する学年を絞って開催してみてもどうかという意見も出ました。



(座 長) 各部から報告いただきました。それを受けて確認したいこと、共通理解を図りたいこと等ありましたらお願いします。

司会からで申し訳ありませんが、確認させていただきたいのですが、CS委員会の活動についての説明の中で「オータム・フェスタは学校が主体となって～」ということになっています。その中で、オータム・フェスタの主催は正確にはどこになっているのでしょうか。

(渡邊指導主事) おおたま学園が主体となって実施するというのが従来だったと思います。ただ、教育委員会（の意向）も強く出ているのかなとも思います。

(座 長) 今お話しさせていただいたのは、始まった当初には、CS委員会から何かしらみんなでやる活動が必要なのではないかという意見が出て、「オータム・フェスタをやりましょう」という形で始まっています。最初はCS委員会が主催だったような記憶があります。そういう中で計画を立てようとしたのですが、オータム・フェスタと2月にあるコミュニティ広場（教育フォーラム）等の行事であまりに時間がとられすぎて、他の協議ができなくて大変だからということ、そしていろんな経緯があって、この活動はせっかく始まった活動なので、学校が主体ということになったはずですが、ただ、学校が主体というのですが、おおたま学園なんですよ。おおたま学園はバーチャルの組織で各幼稚園、各小・中学校がある中でやるとなると、たとえ学園長が大玉中の校長先生だからといって全部を段取ってやってくれるというのは現実的に難しいところがあります。それで教育委員会がある程度見通しを立ててやるということだったのですが、その中で先程玉井小の佐藤校長先生が言われたように目的が曖昧になってきて、「やらなくてはならないからやる」という形で進んでしまった結果、こんなふうになどどのように改善したらいいのか分からなくなってしまったのかなと思います。みなさんいかがでしょうか。

(矢吹副会長) 私も初めの年に経験しました。初めの年は、CSが企画して運営するんだと思って取り組んだのですが、学校の先生方にお世話になってしまいました。先生方の多忙化解消のためにCSが頑張ろうと言っていた割には大分負担をかけてしまったのが第1回目のオータム・フェスタでした。会長からも話があったように、線引き（役割分担）をしっかりとっていくことが次年度に向けて大事ですし、佐藤校長先生がおっしゃったように、目的をしっかりとった上でやるということをもう一回立ち止まって考える時期に来ているのかなというのを感じています。本当にい

い行事であるので、それをどう生かしていくのかもこれからの課題であると思っています。

(座長) 確認事項だけでなく、今自分はこういうふうにしたとかこうしたらいいのではないかと
いうことで構いません。何かあれば…。

(麻生委員) 今日のミニ運動会部で全員の意見が一致したことがありました。活動の目的をはっきり
と目の当たりにしたことです。それは、ミニ運動会をやった中学1年生と小学6年生の交流(異
学年交流)の姿です。他の活動だと地域交流も入っていると思うのですが、普段の学校生活では
味わえない友だちとの交流、「これから中学校にきたらどんな部活にはいるの?」等の先輩と後輩
のコミュニケーション等をたくさん見ることができました。なかなか経験できないような交流を
見たんですよ。私たちは、ほとんど手伝いはできなかったんですけども、遠くから見ていて
すごくいいなと思ったんですよ。たぶんミニ運動会に行った人はみんなそう思ったに違いない
と思うんです。これが活動の目的なんだと思いました。

これを、できれば多くの保護者にも見てもらいたい、もったいないと思うくらいすごくいい
運動会だったんです。私たちだけで独り占めしていいのかと。これを伝えたいのですが、今は感
染症があって難しいのかもしれないですが…。めざすところを決めていったらいいと思うん
ですよ。全員の保護者を呼ぶわけにはいかないと思いますが、希望者だけでも見てもらうとか…。
せっかく始まったことなのでみんなめざすところ(理想)を考えていったらいいなと思いま
した。最初私は学年を絞ったらいいのではと思ったのですが、参加した人たちはいい思い出にな
っているみたいで、今後も続けていったらいいと思います。でも、無理してやると先生が大変な
ので、役割分担をもっと細かく考えたらいいと思います。具体的に考えようと思うと難しい
です。いろいろお手伝いしたい気持ちはあっても、逆に邪魔したくはないし…。でも考えるのは今
なんですよ。何年かかけて改善していきたいですね。

(座長) コロナの影響でここ2年間でできなかったのも大きかったと思います。コロナ対策で、学
校行事もある意味犠牲にして、そういう中でオータム・フェスタを実施ということで、負担感
が大きかったのではないかと思います。そういう中でも、子どもたちの笑顔が素晴らしくて本
当にいいんですよ。

それから、コロナ禍の関係もあって出られない方も多かったと思うのですが、保護者・地域
の方だったり、各種団体の方だったり喜んで手伝ってもらったりとか、そういうのを見て、私
たちも元気づけられたりしました。

そういう意味で本当によかったので、来年度に向けてこの場で全部出せばいいのですが…。
それこそ佐藤校長先生がおっしゃったように、目的をはっきりさせて、改めてですが場合によ
ってはこの活動全体が本当にやれるのかどうかを含めて考えなくてはならないのかもしれない
です。

おおたま学園主催ということだといった誰が検討するのか、このCS委員会が言い出しっ
ぺではありますが、それについて、もしかして私たちの役目というのが検証したり評価したり
することであるかもしれないので、そういう立場で意見を述べて、それを改善に役立ててもら
うとか、何かしら意見が出っぱなしにならなくて来年に向けてこういう形で改善されました
よと結果づけるような形になればいいのかなとも思っています。

(渡邊指導主事) おおたま・オータム・フェスタのねらいは次のように記されています。 ～ 略 ～

平成28年度にやった時に「アートフィールドワーク」という活動があったのですが、これは
絵を描く交流活動でした。小6と中3が絵を描いて交流活動をするという内容だったんです
ね。でも、それは2年間でなくなりました。というのは、交流活動がなされていなかった
からです。そういうことで違う活動「昔遊び・グラウンドゴルフ」に変更になりました。
やはり、それなりにいろんな反省を生かして変わってきたということがあったもの
ですから、今年こういったご意見がありましたので、それを含めて変えていくのも一つ
の方法かなと思っています。

(佐久間指導主事) 私は、初めて熟議に入らせていただいて、とても良い時間を使わせていただいたと思っています。今、博樹先生から“4つのねらい”の説明がありました。それを理解した上で、どういう姿が子どもの姿として期待されるのかというところが大切だと思うんですね。それはどういう姿かという、子どもが様々な人たち（異学年、中学生、地域住民、保護者等）と自然な形で交流している姿で、その中で会話があったり、ふれ合いがあったりとか、そんな姿を“4つのねらい”のもと活動していく中でめざしているんじゃないかと思います。

もう一つ言えることは、子どもが主体的に動いている姿を私たちは求めているのではないかと思うんですね。ミニ運動会では、最初は時間が余ってしまうかなと思ったのですが、やってみたらちょうど良い時間だったということでした。ということは、時間的に余裕があったから、子どもたちが自由に自分たちで話し合いの時間（作戦タイム）をとれて、伸び伸びと活動することにつながったということだと思います。私たちが、そういうめざす姿（主体的な姿、自然な交流ができていく姿 etc.）をイメージして、今年度の活動をもう一度時間的にも見直して改善していく、そういうことも必要なかなと思いました。

(今野委員) うまくは言えないのですが…

まず、私はCS委員という立場に立って2年間務めさせていただきました。先程、いろんな目的・目標・めざす姿等の話はお聞きできたのですが、実際に行っている中で、例えば、「おおたま・オータム・フェスタ」というものを通して、子どもたちにどんなふうに反映させることができるのかとか、子どもたちにとって実施したことが良かったのかどうかとかが今一つ見えてこないところがあります。

また、CSがスタートした時点から私自身いつも思っていたことは、保護者を巻き込むということが難しい（できない）ということです。結局、CS委員会で集まったメンバー、あるいはごく一部の保護者やボランティアとして協力してくださった限られた人たちの中での満足感で終わってしまっているのではないかということです。その思いをずっと抱いてきました。やはり、もっともっと子どもと保護者が中心にあって、そこに我々CS委員がサポートできることをサポートしながら、より子どもと保護者、あるいは地域住民とかいろんな方々を含めた活動に最終的になっていけばいいのかなと思っています。結局今のままだと、保護者が学校で子どもたちが何をやっているのかも分からない状態にいるのかもしれないという思いもあるんです。それで本当にいいのかどうか、そういうことも踏まえて一度見直す（考え直す）時期なんじゃないかと、先程の熟議で先生方やCS委員の皆さんと話し合っただけでそういう意見を出しました。いろんなことをやるのはいいのですが、“今やるべきなのか”一歩踏みとどまって考え直す必要があると思いますし、極端な言い方かもしれませんが、場合によってはなくす勇気も必要ではないかと思います。

また、矛盾するかもしれないのですが、今コロナという状況があるのですが、やっぱりここまで来ると、とるべき手立てをとって「密になってはいけない」「大勢で集まってはいけない」という発想を止めて、もっと保護者同士、先生方と保護者、また、我々CS委員と保護者とかが意思の疎通を図れるような状況をどんどんつくっていくと、改善できないまま時間だけが進んでいってしまいそうな気がしています。極論かもしれませんが、そんなことを思っています。

(座長) 今言われた危機感、危機意識を数年来私も持っていて、特にコロナ禍になってから加速しているような気がしています。保護者を巻き込みたい、でも保護者というと、果たしてPTAと連携できるのだろうか、そういうことも感じています。コロナがなければそれができていい時期だったんですね。ただ、起こったことだから仕方がないんですけども、これをどう克服していくか…。矛盾している言い方なのですが、いろいろやりたいのですが、結果的にやらないという判断になるかもしれないし、その辺が難しい判断になると思います。

まともでないのですが、協議の時間も限られておりますので、これらの意見については教育委員会にまとめていただくしかないと思うのですが、来年度に向けて改善していければなと思っています。皆さん、最後に何かありますか。

(CS委員) ～ 特にない様子 ～

(座長) まとめにならないまとめになっていしまい申し訳ありませんでした。時間になりましたので協議を終わらせていただきます。

6 その他

- (1) 各校・園主催の学校関係者評価について
 - 今後各校・各園から学校関係者評価委員会の案内が出される。
 - 次回のCS委員会で、各校・各園の評価結果についてリーダー（委員長）に説明いただく。
- (2) アンケート「今年度の成果と課題」の提出について
 - 提出は2月3日（金）までをお願いしたい。（直接の提出、郵送、電子メール、FAX等可）
- (3) 次回（最終）の予定 2月24日（金）18：30～
 - 各校園の学校関係者評価に関する報告
 - 令和5年度各校園の教育課程（案）の説明及び承認
 - 令和5年度CS委員会計画
 - 各校・各園からの報告

7 閉会のことば

（おおたま学園CS委員会副会長 矢吹 吉信）

皆さんお疲れ様でした。これで令和4年度第8回おおたま学園CS委員会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

